

氷見のご当地ゆるスポーツ ハンギョボール

それは、ハンドボールとブリの街、氷見市で生まれたゆるスポーツ。得点をすると思に抱えたブリが出世していきます。ゴールを決めたらみんなで「出世！」とコール。でもあまり熱くなりすぎて、大事なブリを落とすと冷蔵庫送り。チームメンバーみんながブリに出世するように協力してプレーしましょう。



ゆるスポーツとは

老若男女、スポーツが得意な人・苦手な人、そして健常者も障害者も、誰しもが楽しむことができるスポーツのこと。
一般社団法人世界ゆるスポーツ協会が開発を行っています。

ルール

ハンギョボールの基本的なルールはハンドボールと同じ

- 1 ブリを脇に挟んだ側の手を必ず使ってボールを投げる。(守備、ドリブルは逆の手でも可) ゴールキーパーは両脇にブイを挟む。
- 2 試合時間は前後半7分ハーフ。休憩は3分間。
- 3 ゴールを決めると脇に抱えたブリが「出世」する。
ゴールをした時は味方チームみんなで「出世」とコールする。
(コズクラ→フクラギ→ガンド→ブリ)
- 4 反則(別記)をすると「冷蔵庫」へ送られ、相手がゴールを決めると全員復帰できる。
- 5 試合終了後、得点計算を行い、チーム内の合計点を競う。

コズクラ 30cm	フクラギ 55cm	ガンド 75cm	ブリ 100cm
1pt	4pt	6pt	7pt

反則

原則、反則をした位置から相手ボールでリスタートを行う

- スレ(キズモノの漁師言葉)…フィールドプレーヤーがブリを落とした時。
- だらぶつ(ばか)…ブリを持っていない手でボールを投げた時。
審判宣告後、相手チームは全員で「だらぶつ!」とコールする。
- おがける(壊れる)…守備側、攻撃側の故意のボディコンタクト
- しよわしない(せわしない)…オーバーステップ
- はよせーま(はやくしろ)…ボールを持って3秒より長く動かなかった場合。
- けつとばす(ける)…キックボール(故意で行った場合、反則と判断)
- おーど(大雑把)…ラインクロス
- うしなけた(なくした)…キーパーがシュートを防ぐ際にブイを落とした場合、相手チームにカブスロー(ペナルティスロー)が与えられる。
※キーパーは冷蔵庫には送られない。



氷見市

富山県氷見市は日本海側の中央部にあり、世界で最も美しい湾のひとつに挙げられる富山湾の北西部に位置します。氷見市は越中式定置網の発祥の地として栄えた漁業のまちです。

天然の生簀と呼ばれる富山湾から多種多様な魚が水揚げされ、中でも出世魚「ぶり」は、ブランド魚「ひみ寒ぶり」として、全国に広く知られています。また、ハンドボールが非常に盛んで、毎年3月に、「春の全国中学生ハンドボール選手権大会」を継続開催するなど、ハンドボールは氷見市民にとってのアイデンティティスポーツと言えます。



開発の経緯

ハンドボール競技は、競技スポーツとしてのイメージが極めて強く、「ハンドボール競技をする者や関係者」の限られた者のスポーツとしての認知に留まっています。

これは生涯スポーツとして秘めた可能性があることを示しており、ハンドボールの生涯スポーツ化や商業価値の創出の面で、先駆的なイノベーションを起こしう分野と考えられます。これらのことから氷見市は、ハンドボールによる更なる地域ブランディングとハンドボールの社会的価値の向上のため、この新ゆるスポーツの開発に着手しました。